

1. 面接官の印象

《外国人面接官》

一見アジア系と思われる顔立ち。いかつい印象でしたが、話を始めるととてもフレンドリーな方でした。

《通訳ガイド

終始笑みを絶やさず、彼女の笑みにだいふ救われました。一連の説明や通訳試験の読み上げも、聞き取りやすくて助かりました。

2. 2分間プレゼンテーションについて

《出題されたトピック》

- 春一番
- ワークーション
- 芭蕉・奥の細道

《選択したトピック》

『 芭蕉・奥の細道 』

《発表した内容》

「奥の細道」は江戸時代、芭蕉によって編まれた俳句の集成です。弟子を連れ、東北、日本海まで足を伸ばし、途中立石寺とか佐渡とかで、有名な俳句を残しています。芭蕉の俳句におけるワビ、サビ精神は今の俳句にもひき継がれています。

《質疑応答について》

NS	俳句の構造、特徴について説明してください。
I	5.7.5 の体裁で、必ず季語を入れる。短いけど、表現力はしっかりある。
NS	短歌とは、どう違いますか。
I	5.7.5.7.7 の体裁。作歌については制限はない。

3. 通訳試験について

《出題された日本文》

日本の和食について。ユネスコの無形文化遺産に指定されている。栄養バランスが取れていて、動物性脂肪が少ないため、これが日本人の長寿や肥満の少なさに貢献している。(うろ覚えです)

4. ロールプレイについて

《場面設定》

初めて来日のご夫婦。日本の家庭で家庭料理を食べたい。

2日ほど滞在の予定。

《ロールプレイ》

I	外国のお客様を、こういった形でもてなします、といったご家庭はすでに登録頂いており、ご希望であればすぐにでも連絡を取りたい。ただ、いろいろ準備もあるので、1、2時間はお時間をいただきたいが。
NS	それは有料になりますか。
I	いえ、お金は全くかかりません。と勝手にシーンを作っていました。

5. 試験を終えての感想

12月4日のセミナーに参加させていただいた者です。その節は大変お世話になりました。たった1回ではありましたが、これで勝手にわかり、ずいぶん心の余裕ができました。自分の体験よりも情報を盛り込めとの講師のご指導があり大いに参考となりました。またセミナーでは他の受講生の方がだいぶ準備をされていて、かなり刺激を受けました（少々焦りもしたのですが）。

さて、今日の試験では、NS、TGのお二人が、大きくうなづいてくれたのが、大きな励みとなり、このまま続けていいんだな、と最後まで乗り切りました。

プレゼンは得意分野でラッキーではありましたが、通訳は、今思えばクセのない良問でありながら、結構手こずり、2、3のキーワードだけは当たっているかな、という出来の悪さでちょっと心配です。

ロールプレイは、勝手にシチュエーションを作っていました。あまり試験官のつつこみもなく、ある意味拍子抜けでした。

11月5日の発表から怒涛の1か月でしたが、日本文化の奥深さを知ると同時に、自分の実力がまだまだと思知らされた貴重な1か月でした。これを機会に、まだまだ学びたいと思っております。

簡単ではありますが、ご報告と御礼まで。